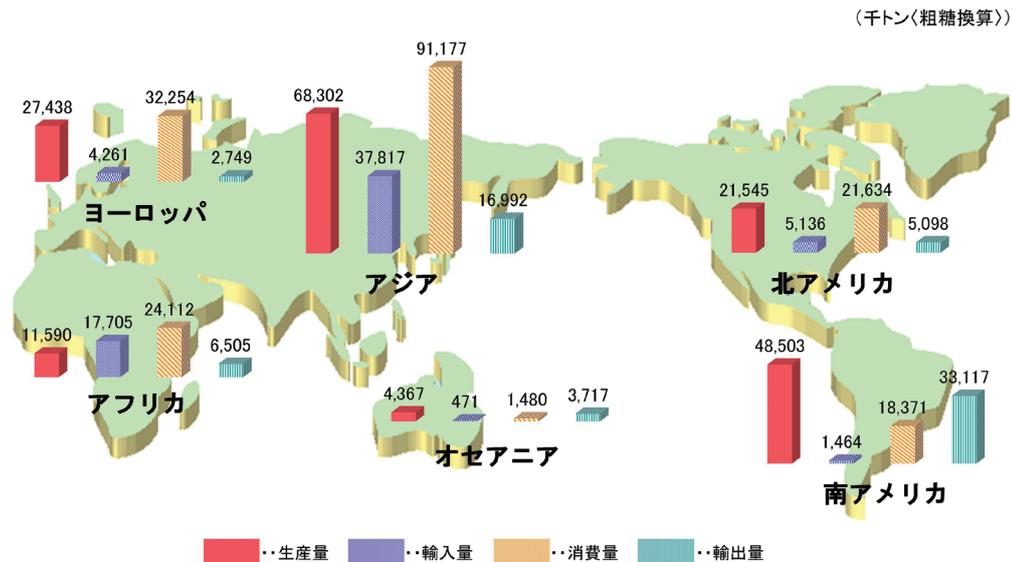


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2023年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン (粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,233	180,846	68,134	81,135	44.9
2018/19	81,135	186,654	61,365	182,866	61,426	84,863	46.4
2019/20	84,863	181,550	69,210	182,097	71,634	81,892	45.0
2020/21	81,892	181,745	66,854	184,618	68,178	77,694	42.1
2021/22	77,694	186,621	69,184	187,383	70,833	75,283	40.2
2022/23 (2023年3月予測)	74,764	192,376	69,524	190,278	70,630	75,756	39.8
2022/23 (2023年6月予測)	75,283	190,261	69,153	189,029	71,220	74,447	39.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2023」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002967.html

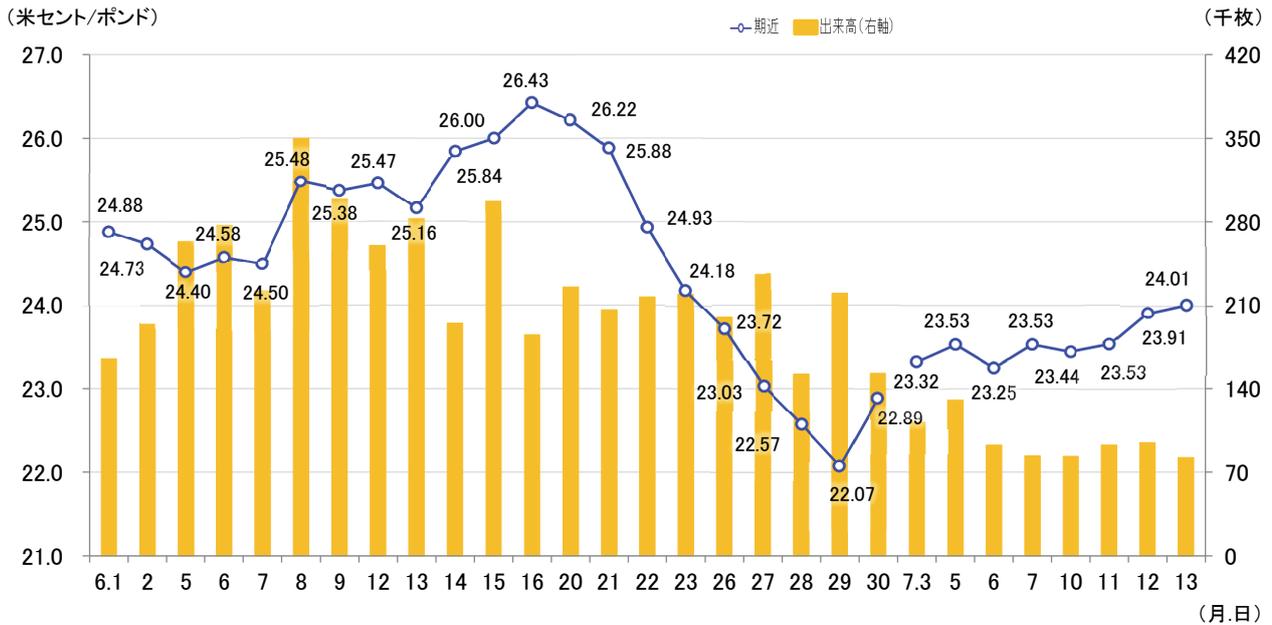
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002968.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (6/1 ~ 7/13)

～ブラジルの増産見込みなどから、3カ月弱ぶりの安値に急落～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：6月は期近7月限、7月は10月限の値。

2023年6月のニューヨーク粗糖先物相場（7月限）の推移を見ると、1日は、ブラジルでの増産を受け、1ポンド当たり24.88セント（注1）をつけた。2日以降は、インドでのモンスーンによる降雨期待などを背景にさらに値を下げ、5日は、同24.40セントをつけた。6日は、リアル高（注2）により、同24.58セントと値を上げたものの、ブラジルの収穫が順調であることが弱気材料となり、7日は、同24.50セントと再び値を下げた。8日は、米国海洋大気庁がエルニーニョ現象の発生を公表したことで、同25.48セントと1セント近く急騰し、9日は、ドル高により値を下げたものの、12日は、天候不順への懸念から再び値を上げ、同25.47セントをつけた。13日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が同国の5月期までの砂糖生産量を前年同期比

33.7%増と発表したことから、同25.16セントと下落したが、14日以降は、原油高（注3）やリアル高を背景に上昇し、16日は、同26.43セントと5月中旬の水準にまで上昇した。20日以降は、中国海関総署が5月の砂糖輸入量を前年同月比87%減と発表したことやブラジルの好天が続いたことなどから続落し、26日は、同23.72セントと2カ月ぶりの安値をつけた。27日以降は、UNICAがブラジル中南部の6月中旬までの砂糖生産量を前年同期比32.1%増と発表したことから下落幅がさらに拡大し、29日は、同22.07セントまで値を下げた。30日は、3カ月弱ぶりの安値まで急落した後、若干のショートポジションをカバーするための買い戻し（注4）が入ったことや大幅安を受け、中国の輸入業者が買いを強めるとした期待から反発し、同22.89セントと

値を上げて納会した。

10月限に代わった7月3日は、堅調な需要の兆しがかえることから、同23.32セントをつけた。5日は、タイの乾燥気候の持続を受け、同23.53セントと上昇した。6日は、リアル安により、同23.25セントと値を下げたものの、7日は、タイの天候不順とドル安により、同23.53セントと再び値を上げた。10日以降は、ブラジルの好天やタイの天候不順などにより上下し、13日は、ドル安と堅調な原油価格の上昇により、6月23日以来となる同24セント台（同24.01セント）をつけた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 売買差益を狙い、将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2023年7月時点予測)

ブラジル

2023/24年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：846万ha(前年度比0.3%減)

生産量：6億6300万トン(同9.3%増)

【砂糖(甘しゃ糖)】

生産量：4492万トン(同13.1%増)

輸出量：3436万トン(同18.6%増)

2023/24年度の輸出量は、増産と国際需要の高まりを背景に大幅な増加を見込む

LMC International(農産物の需給などを調査する英国の調査会社)による2023年7月時点の予測によると(以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2023/24年度(4月～翌3月)のサトウキビ収穫面積は、農家がより収益性の高い大豆やトウモロコシなどの作物に切り替えたものの、846万ヘクタール(前年度比0.3%減)と前年度並みと見込まれる(表2)。サトウキビ生産量は、主産地の中南部地域で好天に恵まれ収穫に良好な条件が続いたことなどから、6億6300万トン(同9.3%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受けて、収穫

作業や工場での操業が加速しているほか、輸出関連の物流が全面的に稼働していることを背景に、4492万トン(同13.1%増)とかなり大きく増加すると見込まれる。輸出量は、エルニーニョ現象による世界的な天候不順への懸念やインドでの輸出枠拡大を期待薄とする報道などを背景に、国際市場での輸入需要の高まりが期待されることから、3436万トン(同18.6%増)と大幅に増加すると見込まれる。

サトウキビ由来のバイオガス、ブラジルで規模を拡大

ブラジルサトウキビ産業協会(UNICA)は7月4日、協会のホームページで同国のバイオガスの生産拡大について公表した。サトウキビ由来のエネル

ギー資源は同国の脱炭素化の推進と再生可能エネルギー供給源の多様化に寄与しており、近年はバイオエタノールや発電利用としてのバイオマスに加えて、新たにバイオガスの生産の勢いが増していると報じた。

ブラジルバイオガス協会 (ABiogás) の調査によると、稼働中の750以上のバイオガスプラントに加え、今後5年間で新たに65のプラントが稼働する予定で、数多くのバイオガスプロジェクトも発足すると見込まれている。また、2023年6月にはサンパウロ州西部のナランディーバにある工場がサトウキビの廃棄物からバイオガス (バイオメタン) を持続的に生産しているとしてRenovaBio^(注) 認証を取得するなど、バイオガスの同国での認知度合いは高まってきている。

バイオマス発電はバガス (サトウキビ搾汁後の残さ) を利用するのに対し、バイオガスはエタノールの蒸留残さ液 (ピナス) やフィルターケーキから生

成されることから、どちらもサトウキビの加工で生じた廃棄物を原料としているため、生産上は競合関係にない。また、バイオガスは100%再生可能エネルギーで、ディーゼルや天然ガスといった化石燃料との代替が可能であることから、化石燃料と比較してCO₂排出量を最大95%抑えることができるとされている。同国で消費される全ディーゼルのうち5%程度が製糖業界で使用される中、バイオガスによる代替の可能性は非常に大きい意味があるとしている。

(注) 同国がパリ協定に基づいて制定した政策であり、バイオ燃料の使用を拡大し、化石燃料による温室効果ガスの排出を相殺するための市場を創出することにより、同国の炭素強度 (carbon intensity) の低減を目標に掲げている。なお、国家石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁によるとナランディーバの工場はバイオガスプラントで初めてRenovaBio認証を受けた工場である。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位: 千ha、千トン、%)

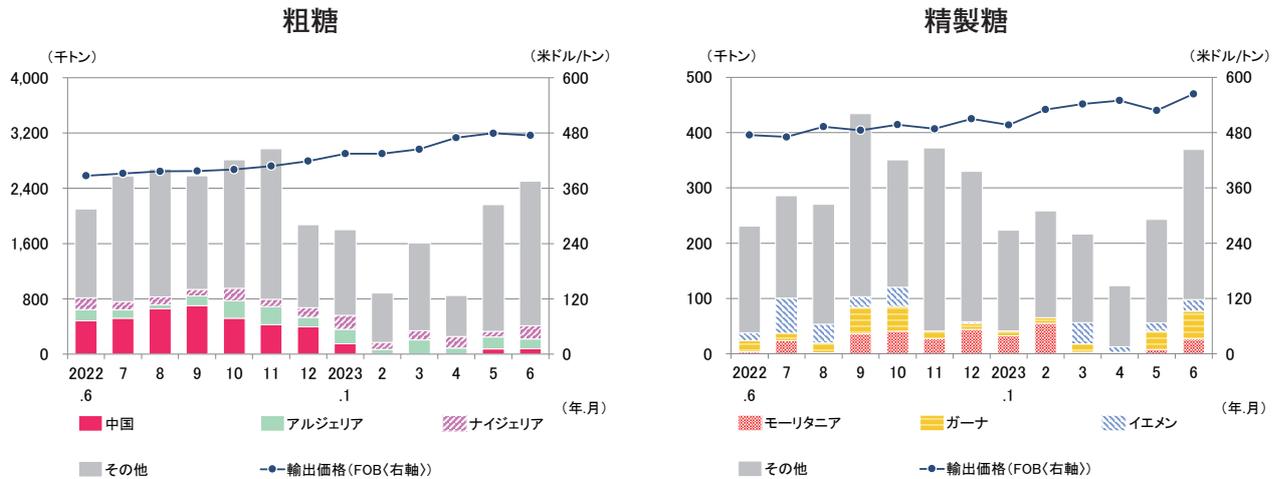
年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (6月予測)	2023/24 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,651	8,679	8,485	8,517	8,461	▲ 0.3%	
サトウキビ生産量	657,432	576,707	606,676	658,000	663,000	9.3%	
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,720	44,200	44,920	13.1%
	輸入量	6	4	2	3	3	48.8%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	28,985	33,647	34,364	18.6%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,466	3,307	3,310	▲ 4.5%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.8	7.5	7.3	1.4ポイント減

資料: LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1: 2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



インド

2022/23年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 557万ha (前年度比5.4%増)

生産量: 4億6416万トン (同4.3%減)

【砂糖 (甘しゅ糖)】

生産量: 3534万トン (同8.4%減)

輸出量: 833万トン (同33.2%減)

2022/23年度の輸出量は、減産と国内需要の確保により大幅に減少する見込み

2022/23年度 (10月～翌9月) のサトウキビの収穫面積は、主産地であるウッタル・プラデーシュ州やタミルナードゥ州での作付面積の拡大などから、557万ヘクタール (前年度比5.4%増) とやや増加すると見込まれる (表3)。サトウキビ生産量は、ウッタル・プラデーシュ州やカルナータカ州で増産が見込まれるものの、マハラシュトラ州での天候不順による減産が影響し、4億6416万トン (同4.3%減) とやや減少すると見込まれる。

また、砂糖生産量も、サトウキビの減産に加え、天候不順による早期出穂^{しゅっすい}によりCCS (注1) が低下したことなどから、3534万トン (同8.4%減) とかなりの程度減少すると見込まれる。輸出量も、減産見込みや国内需要の確保、エタノールへの仕向け増

のほか、輸出枠の前年比減 (注2) などから、833万トン (同33.2%減) と大幅な減少が予想される。なお、現地報道によると、同国政府は昨年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表しており、その後も輸出枠拡大の可能性は低いとしている。

(注1) 可製糖率: サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

(注2) 21/22年度は輸出上限として、過去最高となる1120万トンが設定された。

バイオ燃料のグローバルリーダーへ

7月11日付け現地報道によると、インドの石油・天然ガス相は22日にゴアで開催予定のG20エネルギー相会合でインドが米国とブラジルの支援を得て主導するGlobal Biofuel Alliance (GBA) (注1) を

他国にも開放すると発表した。同相は以前から計画されているGBAについて、世界のエネルギー市場の歴史において画期的な出来事であり、石油輸出国機構のような大きな可能性を秘めていると述べ、いくつかの国がこの同盟に参加する意向を示していると付け加えた。同国と協力し、GBAを構築する米国とブラジルはバイオ燃料のグローバルリーダーであり、それぞれ世界のエタノール生産の6割弱、3割弱を占めている。また、GBAは世界経済フォーラム、国際エネルギー・フォーラム、国際エネルギー機関など、主要な国際機関からも支援を受けている。

持続可能なバイオ燃料には大きな可能性がある一方、原料供給の問題、技術的な限界、政策的枠組み、資金調達や投資など多くの課題も存在する。同相は脱炭素による気候変動の緩和とSDGsの達成という世界共通の利益に応えるため、バイオ燃料の研究・開発の拡大と、より広範な国際協力を可能にし、根本的な課題に対処できる世界的なプラットフォームを持つことが急務であると述べた。

政府の試算によると、同国のエタノール混合プログラムではエネルギーの安全保障を強化すると同時に、過去9年間で5400億ルピー（1兆422億円）^(注2)以上の外貨節約につながったとしている。また、過去8年間で、同国の公営石油会社（OMCs）はエタノールの供給に対して8200億ルピー（1兆5826

億円）以上を蒸留業者に支払い、そのうち4800億ルピー（9264億円）が農家に支払われたと推定されている。環境への影響については、本プログラムでこれまでに3000万トンの温室効果ガス排出削減につながっている。世界第3位の原油消費国であり、原油需要の85%以上を輸入に依存している同国にとってバイオ燃料の利用拡大は、エネルギー輸入への依存を減らし、エネルギーの使用によって急速に拡大するCO₂排出量を抑えるという、二つの目的を達成するための重要な手段としている。

なお、インドではガソリンにエタノールを20%混合した燃料（E20）が今年2月に販売が開始されてから5カ月ほどでE20を取り扱う店舗数が1350店に急増しているという。これを受けて、同国石油・天然ガス相はE20が25年までに同国全土で普及する予定であると発言している。

（注1）G20の議長国であるインドが先導し、主要バイオ燃料生産および消費国である米国とブラジルと共に持続可能なバイオ燃料の利用を強化することを目的に結成された同盟。GBAは市場の強化、グローバルなバイオ燃料貿易の促進、具体的な政策の教訓の共有、世界各国のバイオ燃料プログラムに対する技術支援の提供に重点を置く。

（注2）1インド・ルピー=1.93円（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の6月末TTS相場）。

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

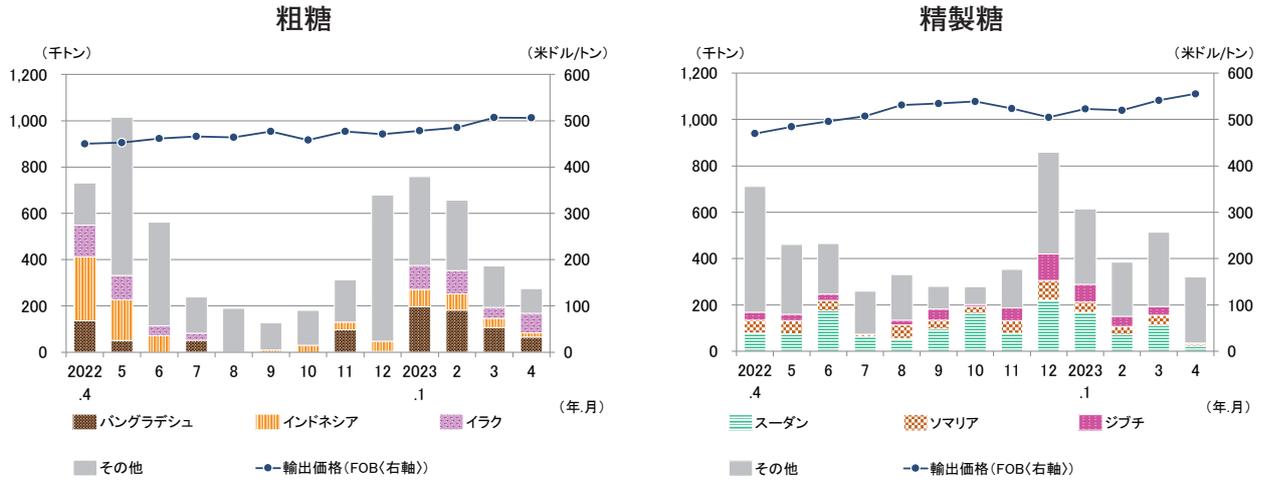
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,534	4,849	5,280	5,565	5,565	5.4%	
サトウキビ生産量	371,430	410,545	485,135	460,411	464,164	▲ 4.3%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	35,345	35,335	▲ 8.4%
	輸入量	1,686	1,037	428	1,087	1,195	2.8倍
	消費量	27,324	28,679	29,516	29,916	30,128	2.1%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	8,013	8,333	▲ 33.2%
	期末在庫量	10,510	7,971	4,973	3,617	3,042	▲ 38.8%
期末在庫率	29.5	21.4	11.8	9.5	7.9	3.9ポイント減	

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：116万ha（前年度比3.9%増）
 生産量：6264万トン（同13.2%減）

【てん菜】

収穫面積：20万ha（同38.2%増）
 生産量：875万トン（同23.8%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：970万トン（同6.1%減）
 輸入量：584万トン（同16.2%減）

2022/23年度の砂糖生産量はかなりの程度、輸入量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、ユーカリ植林地からの転換などから、116万ヘクタール（前年度比3.9%増）とやや増加が見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で昨年7月から11月の間で続いた干ばつの影響や病虫害の発生により、6264万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。また、同自治区では2月上旬から3月中旬にかけての降水量が史上最低（平年比約8割減）となったことから、3月の春植えの時期に十分な降水量を確保できなかったことも減産の要因とされる。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、20万ヘクタール（同38.2%増）と大幅な増加が見込まれる。

てん菜生産量は、産地で特段の天候不順もなく、順調な生育が予測されており、875万トン（同23.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から、970万トン（同6.1%減）とかなりの程度減少し、1000万トンを下回ると見込まれる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされてきたことから減少見通しが続いている。22/23年度も、国内での砂糖生産が減少予測となっているものの、近時の世界的な砂糖価格の上昇などを背景に、在庫の取り崩しなどが見込まれることから、584万トン（同16.2%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

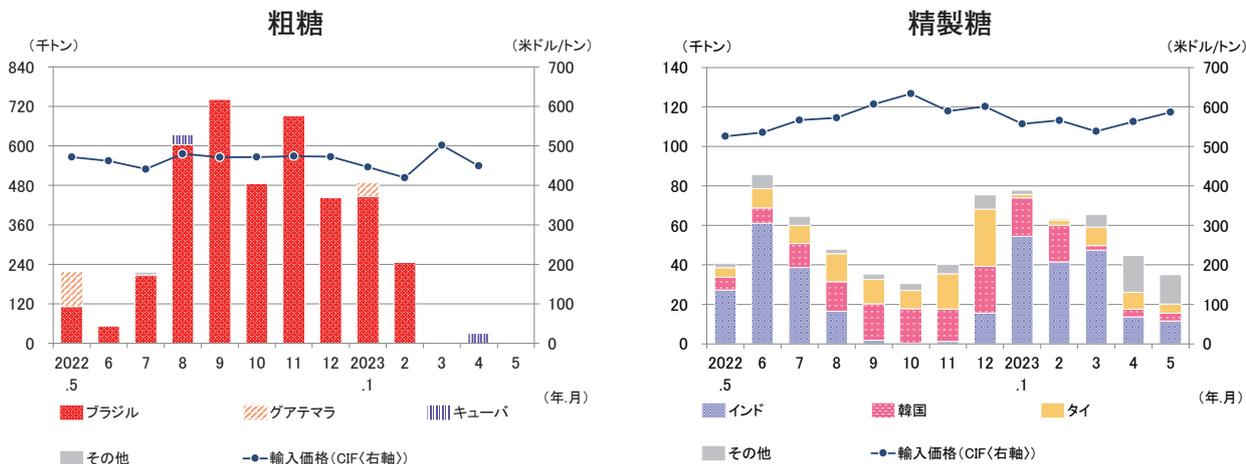
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,163	1,163	3.9%
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	62,572	62,635	▲13.2%
てん菜収穫面積	213	231	144	199	199	38.2%
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	8,753	8,753	23.8%
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	9,709	▲6.1%
	輸入量	6,657	8,198	6,962	5,473	▲16.2%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	2.0%
	輸出量	192	134	172	187	6.5%
	期末在庫量	12,860	15,714	16,314	14,459	▲9.2%
	期末在庫率	77.9	93.1	97.7	84.9	87.0

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

注3：2023年5月は粗糖の輸入実績なし。

E U

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha(前年度比3.8%減)

生産量：9941万トン(同10.8%減)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1575万トン(同8.8%減)

輸出量：90万トン(同31.7%減)

2022/23年度の輸出量は減産を背景に大幅に減少し、輸入量は大幅に増加する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は、ウクライナ情勢の影響などにより、世界的な規模での食糧不足や価格高騰の懸念が広がる中、

収益性が高く価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール(前年度比3.8%減)とやや減少すると見込まれる(表5)。てん菜生産量は、昨夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格の高騰によ

る施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止などから収量が平年を下回ると予測され、9941万トン（同10.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込みと霜により含糖量が一層低下したことなどから、

1575万トン（同8.8%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸入量は、減産による不足分を補うため、ウクライナやブラジルからの輸入が増加し、290万トン（同36.0%増）と大幅な増加が見込まれる。一方、輸出量は、砂糖の減産などを背景に、90万トン（同31.7%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

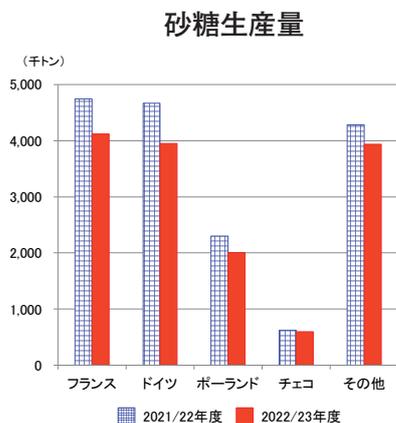
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,454	1,398	1,399	▲ 3.8%
てん菜生産量	110,105	98,520	111,395	99,597	99,409	▲ 10.8%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,283	15,745	▲ 8.8%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,737	36.0%
	消費量	17,014	16,766	17,784	17,732	▲ 0.9%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	853	▲ 31.7%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,651	1,472	7.6%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.6	7.9	9.6

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

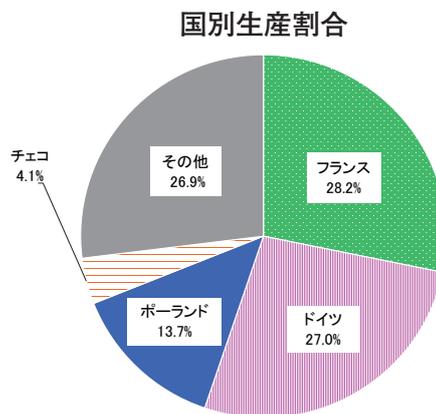
(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2022/23年度) (2023年6月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向（2023年7月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国がほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：34万ha（前年度比2.5%増）

生産量：3176万トン（同2.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：433万トン（同2.6%増）

輸出量：333万トン（同13.2%増）

2023/24年度の輸出量は、砂糖の増産を背景にかなり大きく増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、34万ヘクタール（前年度比2.5%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、クイーンズランド州南部などで乾燥した気候が続いたことで、3176万トン（同2.5%減）と、前年度からはわずかな減少が予想される。

砂糖生産量は、433万トン（同2.6%増）とわずかに増加すると予想される。輸出量は、世界的な経済回復により同国の主要輸出先である韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要によってけん引されることに加え、世界的な砂糖の供給懸念により豪州産砂糖需要の高まりが見込まれることから、333万トン（同13.2%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

豪英FTA発効後初となる豪州産砂糖の英国向け出荷が開始される

クイーンズランド砂糖公社（QSL）とサトウキビ生産者団体のCANEGROWERS、ならびに英国の製糖企業Tate & Lyle社は7月10日、2023年5月31

日に発効した豪英自由貿易協定（豪英FTA）による英国向け粗糖出荷に対する共同声明を発表した。

かつて豪州から輸出される砂糖の三分の一程度が英国向けであったが、欧州が高い関税を設定することで豪州産の欧州市場へのアクセスを制限したことから、長らく豪州産砂糖の英国輸出は実現していなかった。この度の輸出再開について、QSLのCEOは1973年に英国がEC（欧州共同体〈EUの前身〉）に加盟した際に事実上失われた現地市場を再活性化させるもので、業界一丸となって取り組んだ結果であると高く評価した。なお、豪州農漁林業省は協定発効初年度の豪州産粗糖の輸出額を7400万豪ドル（72億3498万円）^{（注1）}に達すると見込んでいる。

またCANEGROWERSの会長も、サトウキビ生産者が業界主導の農場環境管理プログラム「Smartcane BMP^{（注2）}」の導入に踏み切ったことが、約半世紀ぶりとなる英国向けの商業出荷の再開につながったとし、豪州の貿易交渉担当者として業界による長年の努力を称賛した。

Tate & Lyle社は豪州産粗糖の調達理由に、クイーンズランド州で栽培されるサトウキビの4割がSmartcane BMP認証を受け、州内の生産者は農

場での収益性を維持しながら、持続可能性に係る投資を続けていることなど、豪州の砂糖産業が世界最高峰の持続可能性を有していることを挙げている。

約半世紀ぶりとなる豪州の英国向け粗糖輸出は、豪英FTAにより初年度に8万トンの免税枠が設定され、2031年1月1日に関税が完全に撤廃されるまでの間、徐々に輸出量が増加する見込みとなっている。豪英FTA発効以降初となる英国向け豪州産粗糖は7月11日にQSLによりクイーンズランド州のタウンズビルから輸出され、9月10日にTate & Lyle社の製糖所に到着する予定となっている。

(注1) 1豪ドル=97.77円(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の6月末TTS相場)。

(注2) サトウキビ栽培の生産性や収益性、持続可能性の向上のためにクイーンズランド州すべての生産者が参加できる任意プログラム。クイーンズランド州政府の資金援助を受け、CANEGROWERSが主体となり実施される。詳細については『砂糖類・でん粉情報』2023年4月号「砂糖の国際需給5. 日本の主要輸入先国の動向(2023年3月時点予測)」https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002900.htmlを参照されたい。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (6月予測)	2023/24 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	354	342	331	348	339	2.5%	
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	31,446	31,764	▲2.5%	
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,222	4,405	4,333	2.6%
	輸入量	10	9	16	14	14	▲12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,009	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	2,945	3,404	3,334	13.2%
	期末在庫量	789	383	668	673	671	0.5%
	期末在庫率	18.0	8.5	16.9	15.2	15.5	1.4ポイント減

資料: LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1: 2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度(10月~翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 162万ha(前年度比6.0%増)

生産量: 9389万トン(同3.0%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量: 1158万トン(同7.7%増)

輸出量: 833万トン(同3.1%増)

2022/23年度の砂糖生産量は前年度より増加、輸出量も800万トン前半と前年度を上回る見込み

2022/23年度(10月~翌9月)のサトウキビの収穫面積は、競合するキャッサバの生産に転換した農家の一部回帰などから、162万ヘクタール(前年度比6.0%増)とかなりの程度増加すると見込まれる

(表7)。なお23/24年度に向け、現地では作付けが始まっておりエルニーニョなどによる乾燥気候を考慮し、より乾燥に強いキャッサバに転換する農家が増加しているとされる。サトウキビ生産量は、昨年の雨期の長雨により東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、他の地域で収量が増加し、9389万トン(同3.0%増)と依然として高水準が見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビの増産に加え含糖量が前年度を大きく上回ったことから、1158万トン（同7.7%増）とかなりの程度増加し、21/22年度に引き続き1000万トン超えが見込まれる。輸出量は、

砂糖の増産や輸出先国の景気回復などを背景に、833万トン（同3.1%増）と依然として倍増した前年度を上回ると見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

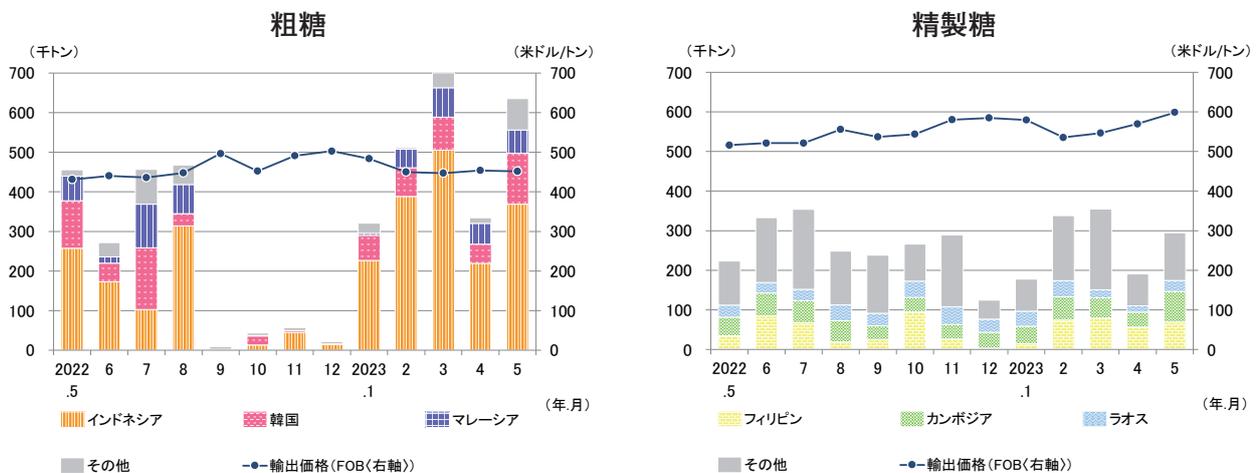
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (6月予測)	2022/23 (7月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,617	1,617	6.0%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	91,145	93,884	93,888	3.0%	
砂糖	生産量	8,801	7,981	10,749	11,569	11,575	7.7%
	輸入量	66	111	149	100	100	▲ 33.1%
	消費量	3,773	3,592	3,424	3,348	3,348	▲ 2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,085	8,329	8,332	3.1%
	期末在庫量	4,532	5,051	4,442	4,434	4,437	▲ 0.1%
	期末在庫率	37.0	66.7	38.6	38.0	38.0	0.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。